

【インクルーシブ教育を通してめざす子供像】

「わかる」「できる」と探求的に学ぶ子
～すべての子供たちが参加できる授業づくり～

個別最適な学び

- ・個別の支援、合理的配慮の提供
- ・低学年に焦点化したスクリーニング（読み書き等）
- ・コグトレによる認知機能向上

協働的な学び

- ・非認知能力の育成（リフレクト）
- ・コミュニケーションゲームの推進
- ・SSTワークの実施

教育のユニバーサルデザイン

授業

A 焦点化

- ・「学習のめあて」の明示
→学習ボードの活用
- ・発問の工夫
- ・課題の精選
- ・効果的なワークシート

しぼって
分かる

B 共有化

- ・言語活動の共有
→考えを伝え合う
- ・思考過程の共有
→ねらいに向かう思考を共有
することでより深める

話し合って
分かる



C 視覚化

- ・ICTの活用
→モニターやタブレットの効果的な活用
- ・板書、掲示物の工夫→図式化、イラストの活用
- ・「見える化」→タイムタイマーの利用
→聴覚的だけではなく視覚的な情報の提示



見て
分かる

教室環境

<環境の構造化>

- ① 刺激量の調整（教室まわり・音の調整など）
- ② 整理整頓の工夫（置く場所の固定化・構造化）

人的環境

<安心感・居心地の良いクラス>

- ① ソーシャルスキルの向上（話す、聞く、共感するなど）
- ② 雰囲気・空気感づくり（違いを認め合える、教師の笑顔など）